明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　每月一回一日發行　價六錢

家庭雜誌

第五卷

第四號

明治四十二年一月一日發行

Dai 5 Kan.　**KATEI ZASSHI**　Dai 4 Gō.

四ッの道德……大杉榮……一
禮服廢止說……堺利彥……二
さま〴〵の結婚……深尾韶……四
社會の產物……大石祿亭……七
西洋菓子の拵方……山田嘉吉……一〇
二月中の菜園の仕事……久田二葉……一三
落葉朽葉……山口孤劍……一四
美人と天才……中尾傘瀨……一六
間接の讀者……一讀者……一八
小說 釣鐘物語……大杉榮……一九
女學校評論(三)……目黑里人……二六
　△成女學校
婦人界の新思潮……三〇
記者より……三〇
新刊紹介……三一
ローマ字欄……三二

家庭雜誌社

東京府下新宿淀橋町柏木三百四十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

石鹸と洗粉は
何れが善きか

●クラブ洗粉は御婦人方は勿論紳士方の愛用も又盛也

●クラブ洗粉は各地の小間物店及化粧品店にあり●

クラブあらい粉

謹製

帝國化粧品倶樂部

●本店　大坂東區北久太郎町四丁目御堂筋角

●支店　神戸市花隈町間の踏切り上る

中山太陽堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌
第五卷第四號

四ツの道德

榮

▲小兒が河の中に溺れてゐる。其處を四人の人が通り掛かる。

▲其の一人は思つた。自己は只自己の爲めにすれば善い。彼れは知らぬ顏をして通り過ぎた。

▲もう一人は考へた。若しあの兒を助けたら、神樣はきつと何かの褒美を下さるに違ない。彼れは直ちに水の中に飛び込んだ。

▲もう一人も考へた。人の滿足には、內的滿足と外的滿足との二種類ある。而して、人を助けるのは其の前者に屬して、永久に續く所の快感を得る道である。救はざる可らず。彼れも亦、直ちに水の中に飛び込んだ。

▲もう一人は、幼少の頃より自己は人類の一分子であると敎へられてゐる。從つて、人の苦痛は即ち我が苦痛である、人の幸福は即ち我が苦痛であると感じてゐる。されば、其の小兒の叫び聲を聞くや否や、何等の考ふる所なく、殆んど無意識に水の中に踏り込んだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

禮服廢止說

堺利彦

▲地方で手堅く暮して居らるゝ諸君には其樣な覺えはあるまいが、都會のセチ辛い生活には禮服といふものに就ての騷ぎが毎度起る。羽織、袴、紋付、丸帶の類が何時でも簞笥の中に揃つているなら論は無いが、それが質屋の藏に轉居して居たり或はその轉居先で洪水の難に罹り疾の昔し流失していたり、或は轉居流失まででもなく、最初からそんな物が出來せずに居たりする場合にはヤレ結婚、ヤレ葬式、ヤレ宴會、ヤレ正月といふ時に、何よりもまづ心配になるのは此一事である

▲そこで或者はヒト工面をして急に其一日だけ轉居先から呼戻して、翌日は直ぐに又元の座敷にお直りといふのもある。或者は迷惑がる友人なんどのを無理に借出して縫上袴などといふ滑稽を演ずるのもある。或者は又、これ丈の働きも出來ずして仕方がないと舌打しながら、不體裁の姿をして悄々と出掛けるのもある。

或者は又、その不體裁の姿が厭さに、急に病氣を起したり、差支を生じさせたりするのもある

▲お恥かしい事ながら、小生なんども永年の間、かゝる憂き目を見盡して來た者である。そこでツラ〳〵考ふるに、人間斯樣な事に苦勞して壽命を縮むるは愚の至なりと、或日豁然として悟つたといふ程の譯でもないが、どうも此の日本服と洋服と二た通りの禮服を拵へるは迷惑千萬の次第である、是を一方に極めてしまへば責めてそれ丈の簡易であると思ひつき、斷然日本式の禮服を廢する事にした。尤もそれは在り餘た斜子の羽織や仙台平の袴を態と着ずに棄てゝおくといふ譯ではない實をいへば、既に久しく轉居させてあつたのを、その流失するに任せて顧みなかつたといふ迄の事である。

▲其後といふものは年が年中如何なる儀式と雖も、只フロックコートの一張羅フロックコートの不似合な席なども無いでは無かつたが、然しそれが我等の定例といふ事になれば、人も一向に不思議らしい顔もせず、

自分は實に氣樂であつた。

▲處がこゝに又一變化が起つた、といふのは此の四五年來、僕の體が非常に肥滿して來た。古い洋服は大抵皆な窮屈で着られなくなつた。例の一張羅のフロツクコートも胸の釦が合ひにくゝなつた。是は實に大變である。フロツクコートも新調せねばならぬ、背廣も新調せねばならぬ、外套も新調せねばならぬとなつては僕たる者實に閉口の至である。

▲そこで僕は又一つ決心した。曩には日本式の禮服だけを廢したのであるが、今度は禮服其者を全廢することにした、そして身幅の合はぬフロツクコートは友人にやつてしまつて、背廣の一着だけ新調した。

▲其後といふものは、何處に行くにも背廣ばかり、現に數日前の如きは、舊友の葬式にもそれで列席した。若し是が色々と禮服着用の工夫をして而も遂に其意を果さず仕方がないと舌打ちしてとう／＼背廣の儘で出掛けたのであるならば、僕たる者如何に悄然として居た事であらう。然るに既に自分決心して禮服なる者を

全廢して、是が我等の定例といふ事になれば、背廣の一着を以て綺羅星の如き貴女紳士の間に立つて、何の極りの惡い事もなく、實に氣樂なものであつた。

▲されば明治四十年の正月にも僕は元日から背廣一着で用事に出かけるのだ。貧乏人は是が當り前ぢやないか。金の有り餘る者はシルクハツトなり、三枚重ねなり。勝手な物を着るが善い、何も貧乏人が四苦八苦してその眞似をするには當らぬ。況んやそれが出來ぬからとて恥かしがるにも及ばず、あやまるにも及ばぬ譯だ。全體禮式などといふ者は金持の上流社會が勝手に拵へたもので、元々貧乏人には通らぬ樣に出來て居るのだ。何でも貧乏人なる者は、貧乏人の見識を立て通すが善い。儀式には外れても、それが却つて人情に合ふのだ、人たるの道に合ふのだ

性慾論

▲性慾的本能は、生存の意志を最も完全に表白する者にして、又、全ての意志の集中也。　シオーペンハウエル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

朋友、親類、知人、さまぐの結婚

深尾韶

男の方から言へば世の中は「女ならでは夜の明けぬ國」であるが、女の方から言へば又「男ならでは夜の明けぬ」次第で、此の世に男女といふ異つた性のある内は兩性問題——結婚問題は何時になつても新らしい問題、興味深き問題である。

本誌などでもモウ此の事については耳にタコの入るほど何遍も何遍も繰り返して云つたことであるが、サテ又自分の周圍を見廻して見ると、そこにも此處にも種々樣々な結婚が、行はれたり破れたりして、面白き人生の綾をば複雜に織りなしてゐるのだ。

YK夫人は二人の子供の母であるが、此頃はモウ涙の中に埋もれて日を送つてゐる。此人と此人の良人との關係は何時まで續くものやら。或はコヽ二三ケ月を出でぬかも知れない。可哀そうに身も世もあられぬだ

らう。良人は此人と最愛の子供が餓え凍えるのも介意はずに、今までの慣れた職業を棄てゝ新たな事業を企てやうと云ふのだもの。それも其の事業をすれば收入は減り名譽は損じ、或は全然食へなくなるといふ心配が殆んど疑ひもなく背後に控へてゐるのだ。夫人たるものドウして之が默つてゐられやう。それでドウゾ思ひ止つてといへば、良人は今迄の職業が餘り性質の善くなかつたのに引換へて、今度のほど正直な、ジミな、眞面目な職業はありやしない、どうしても思ひ止まることは出來ぬといふ。それは、立派かも知れない。けれど食へなくなつたらドウしやう。自分は手に職業の覺えがあるではなし、どうして二人の子供を養つて行けるものか。そう思ふとドウあつてもコリャ一生浮沈の瀬戸と、或夜思ひ切つてイッソ今の内に離縁して下さいと申し出した。切めて子供を良人の方に置いておいて身一つになつたら、又身の振り方もあらうとは思ふものゝ、良人があの情けに滿ちた說諭を聞いては、右に行かれず左に歸られず、夜も日も泣いて暮らさね

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばならぬ夫人の心中、察して見れば氣の毒とも氣の毒である。世間の事情に疎い女氣の、良人の理想を了會することが出來ずに、悶へて苦しんで、我から破鏡の不幸を招いてゐるのだ。あゝ世の中の多くの教育の足りない女子が、男子の心の了解が出來るやうに進むまでの途中、倘ほドレ丈けの血の涙が入用のことやら。

　ＩＡ孃は今年二十七の、日本で云へば可なりの老孃である。早く兩親に死に別れて、幼なき弟や妹の世話に、若き血の大凡は消え果てゝゐるが、それでも去年の秋緣談が持上つて、或る軍醫の處へ片付く筈になり、老孃も初めて肩の荷が下りたやうな氣がしたのであつたが、不幸の神さまは未だ孃の涙が絞り切れぬと見てか、脆くも夫が破談になつて了つた。それは軍醫には一人の四十ばかりになる情婦があつたが、それが口惜しまぎれの邪魔を入れたからであつた。なまじ軍醫などといふ地位や名望が無かつたならば、マサカお婆さんとてもソンナにヒツコく付き纏ひもしなかつたらうに。トウ〱おくれ乍らも返り咲きをしかけた

花も、復た起つことの出來ぬほどな大打擊を受けて了つた。あゝ此人の爲めにはモウ若々しい芽をふくやうな春は決して廻つて來ぬであらう。

　Ｓ君といふのは、三十の今年まで未だ獨身の出來損ひである。昔しはＰ孃に可愛がられて、何とは知らず無闇に月日を短かく暮らしたこともあつたが、其當時は只ウブの丁度マヽ事みたいな戀、先方も少ければ此方も少し、結婚とか夫婦とかいふ事はツイ胸に浮ばずに、流れて早き月日、其後二三箇所を漂泊つて遂に此の有樣、去年の夏ＩＡ孃の妹なるＩＥ孃に、人して結婚を申込んだところ、色々のわけはあるが要するに餘り遠方のそちらへは嫁にやること叶ひ申さぬといふ親類緣者の故障を言ひ立てゝの斷りの返事。Ｓ君ガツカりし、爾來鬱々として樂ます、只管に情慾の虫を殺して勉強々々と強い付けられる女學校の年長學生に屢く見るヒステリー患者の樣に、心もチト變調を呈して、人とさへ見れば結婚を申込む。

　ＫＦ孃は其の結婚を申込まれた一人である。Ｓ君と

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は一面の識もないが、S君の方では孃の文章や寫眞を文學雜誌で度々見て慕はしく思つてたと云ふ。見ぬ戀にあこがるゝといふ譯でもあらうか。S君が孃に與へた手紙には、此の結婚の成立すると否とは自分の死生に關すると書いてある。孃は多少S君の手紙によつてS君を了會し、自分の良人とするには少々物足らぬと思つてゐるらしいが、其後どう云ふ返事を與へたかツイ聞くことが出來なかつた。

A君は極々ハイカラ式な自由戀愛をやつた。眞砂白き或る濱邊に住でた時分、月の夜は一緒に黒い松の影を踏み、花の曙には赤い霞の幕蔭にかくれて、幾十百の年頃の男女を羨ませたことであらう。そして約束が出來ると直ぐ旅に出で河鹿の音を幾夜、さ牡鹿の聲を幾夜、そして手に手をとつて鳥が啼く東の空に、今は水も漏らさず暮してゐる。

憂い悲しい月日も、うれしい樂しい月日も、考へて見れば別に變りのない同じの縱線を、右と左から持つて來る人と事情と場合との色さま〴〵の横線が、ある

は花形、あるは紋と唯織り出す綾のとり〴〵、泣きながらも笑ひたいやうな攝理では無いか。

けれど我々の主張する社會主義が實行されて、一方には女子の教育がグッと進み、一方には兩性の交際がモット自由になつて行つたならば、戀の運命を上す舞臺面はズット〴〵晴やかになつて、役者も見物人もドンナに骨が折れぬやうになるか知れぬ。待ち遠しいのはホントに社會主義の理想の世だ！

●未開婦人の體力

▲中央亞弗利加の或る地方には女子が男子よりも強く、從つて女子は男子の上に命令權を有してゐる。

▲アフガニスタンの或る地方には、女子は外にあつて戰爭や狩獵をなし、男子は内にあつて家事に務めてゐる。

▲西亞弗利加のアシヤンテス地方の王、及び中央亞弗利加のダホメー地方の王は、娘子軍の一聯隊を以て其の近衞兵としてゐる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會の産物

大石祿亭

○丙午の年が押しつまつてから余が家に一人の男子が出來、曾祖父の名貞舒の一字を取つて舒太郎と名づけた。出生届をする前に或人は曰ふ。年弱の子は何かにつけて損が多い、宜しく來年の一月一日生れとして置いたら良からうと。又或人は曰ふ。然り左すれば丙午の年と曰はるゝを免かれて甚だ妙ならんと。

○左れど余は彼等のおめでたき言葉に耳を貸さぬ。余は何となく强いものよりも弱いものに同情を有つ、得をしたものよりも損をしたものを哀れに思ふ。又丙午の年が惡るいと言はれてもそれは何んとも致方がない人が惡るいと言ふのに自分が善いと言ふてもつまらぬ惡いと言ふが迷信ならば善いと言ふのも又迷信かも知れぬ。汎ての事わからぬをわかつたとした安心は其中に必ず不安がある、わからぬをわからぬとして置けば其所に自ら安心も出來る。猿を人間にした進化論でも、

これに數十萬年を費したと言ふ。まして我々の力で半月足らずの間に馬が羊に變りさうな筈はない。

○世の人は子が出來ると一般に喜ぶ殊に男の子であると世繼ぎが生れた跡取りが出來たとて非常に喜ぶ。甚しきは將軍皇太子など丶恐れ多い事まで言ふ。併し或學者が多年研究の結果によると、此あとゝりと言ふは親の死に際にバヽいをとる事だと曰ふ、然り余が家のあいゝとゝりも大方バヽいとり位なものであらう。

○余は我子をほんとうに自分の子でない樣に思ふ。さらば誰の子かと問はれたら神が造つたと言はうか社會の産物と言はうか、兎に角人間の力で出來るものではない。世間には我子を我ものと思ふ人がある。それは丁度親から貰ふた家屋敷を我ものと思ひ富籤で取つた金を我ものと思ふ人があると同じく、甚だ淺墓な考と言はねばならぬ。

○子は親のものでないのみならず、親も亦必ず子を育つべきものではない。但だこれまで多くの子が親に育てられて來たのは、手近に居合はして便利の上から起

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた仕きたりで善い事にもわるい事にも先づ向ひ三軒兩隣りが手を出す樣に、子が生れる時親が丁度そこへ出喰はした因果とでも言はうか近所役にほつて置けぬから之を育てたのである。

○若しも子と言ふものが必ず親に育てられねばならぬとすれば、子が幾つになるまで親は急度生きて居るべしと言ふ法律でもありさうなもの、然るに實際は世に孤兒と言ふものもあり、又兩親が生きて居ても他人の手に育つものが澤山ある。なにそんなものは例外だと言ふ人があるかも知れぬが、畢竟例外も通例も同じ一つの自然法に支配されるもので、今日異常と思はるゝ事が他日通常に成り得るのである。

○話が少し理に落ちて面白くないかも知れぬが、余は生物と社會の進化と言ふ點から見て、人の子は終に親が育てず社會が育てる樣になるであらうと思ふ。彼の昆蟲や介魚の親は無數の子を生み放したまゝで何の世話も燒かぬ。死ぬだけ死ねば生殘つたゞけで種族を保存する樣に成つて居る。之を假りに自然化育の時代と

名づける。

○併し斯う言ふ社會はあまり冷かく乾燥して面白くないと言ふので、造化はそこへ愛と言ふ暖かなものを吹込まんとて哺乳動物を作つて見た。親が子を育てると言ふ事は即ち此時に初まつた事で、それから追々進化して終に人類に至り啻だ乳を呑ませるのみならず、着物をきせたり弄物を與へたり、又讀み書きを敎へる樣になつた。之を假りに個人養育の時代と名づける。

○此時代には親が自ら我子にすべての事を敎へた。我國でも近年まで醫者の子は其親に就いて醫業を習ひ商人の子は其親に就いて商業を習ふて立派に世に立つ事が出來た。然るに文明はすべての制度を複雜にして分業の必要を感せしめ、子女の敎育は其親にのみ放任して置くわけに行かず、そこに專門の敎育家と學校と言ふものが出來た。

○然るに一方に於ては私有財産の制度が發達して生存競爭が激烈になり、貧乏人は子供の敎育どころか自分の衣食にも窮する樣になつた。世人は之を見て、自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の子も能う育てぬ意氣地なしであると言ふ、又子澤山なる貧乏人の泣言を聞くと己れの勝手に拵らへたものは勝手に育てるがあたりまへであると言ふ。よし、左らば之を勝手に殺して仕まはうと言へば法律は嚴しき刑に處する。若しも子の殺されるを保護する位なら之に生存の保障をも與へさうなもの、一方に罰して一方に助けぬとは何たる片手打の社會ぞや。殊に今日の貧民と言はるゝは其人の無能や不德によつて斯かる悲慘な境界に陷つたものでなく、富豪と云はるゝものは多く投機と詐僞と僥倖とによつて仕上げた身代であるものを。

○斯く、人間社會に貧富の懸隔が甚しくなると、少數の子供だけが十分の敎育を受けて多數の子供は全く無敎育に終る樣になる。初め個人的の狹き愛を以て人心を刺激し之によつて其子を養育させて見た造化の配劑も、玆に及んでは少々藥が利き過ぎて排他我利の修羅場を現出し、個人敎育の目的は最早達せられぬ樣になつた。そこで今度は一つ手を變へて社會的の博き愛に

訴へる敎育が行はれる事になる、これを假りに社會敎育の時代と名づける

○社會敎育の時代は我々が理想の世である。人間の子をば總べて社會の產物と見なして、社會が之を保護し社會が之を敎育する世である。斯う計へばそんな事は唯だ空想に止ると言ふ人もあらうが、實際今日の政治家や經世家は既に個人敎育の到底不可行なるを認めて國家强制の敎育制度を布き、授業料を免除するとか敎科書を國定にするなど、我々は所謂社會敎育のまねをやつて居る。箇人をしても慈善とか公共とかなまにいゝえの名をつけて貧民學校を建てたり奬學金を寄附したり、又外國では總べての生徒に學校から書籍や文具を給し或は晝飯を食はせる樣な事もやつて居る。

○我々の目で見ると今生れたての赤兒にこれ程の財產を讓らうとか、あれだけの敎育を施さうなど、思ふ人こそ取らぬ狸の皮算用とやら、其目的を達するものは恐らく千百人中の一人であらう。それよりも我々の理想とする所は今暫らく迂遠な樣に見えても、すべての

人が皆望み得べき事で又必ず其境に達し得べきものである。鶏でさへ親鳥が必ず自分の卵を孵へすべき時代は過去り、今日では多くの卵が人工的に孵へされる。人間の子も社會の産物であるとすれば社會が之を育てるのは當然な話で、すべての人間の卵が社會と言ふ一大孵卵器と大家庭と大學校の内で孵化せられ養成せられ教育せらるゝ様になる。その日もあまり遠き未來ではあるまい。余は我家に出來た子の養育につきては、今からもうそんな日になつた様な氣持である。

新刊紹介

▲**農村の幸福法**（手島益雄著）　本書は家庭、教育、宗教、自治等の十章より成り、更に其の第一章の家庭を、如何にして結婚す可き乎、如何なる妻を迎ふ可き乎、如何なる夫を待つ可き乎、夫婦の權限は如何に定む可き乎、家族關係は如何に定む可き乎等の十節に分けてある。讀んで見るに、著者は稍々進歩したる思想を有する人らしく、所々別つた事を書いてゐる。（價三十錢本郷區西片町新公論社）

西洋菓子の拵方（二）

山田嘉吉

（二）パウンドケーキ

Pound cake とは、材料も何もかも、皆一斤づゝ入れて作るから、斯く名づけたものである。故に、若し材料の中の何か一ッを半斤入れるとすれば、其の他のものも皆半斤づゝ入れる割合になる。

▲材料

（一）卵三ッ。卵は三つで四半斤の目方になる。

（二）バターを五分の厚さに切つたもの一片。これも一片で四半斤になる。

（三）砂糖を茶碗に八分目。

（四）麥粉四半斤。茶碗に一杯と少しとで四半斤になる。

（五）ベーキングパーダーを一茶匙の三分の一。これは勿論四半斤を入れるものではない。

▲方法

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(一)バターを冷水で洗ふ。凡てバターの中には酢と水が含れてゐるから、これを善く洗ひおとす。

(二)洗つたバターを黄鉢に入れ、砂糖をませる。指先で殆んど白くなる位までませ合せる。匙でかき廻したのでは、善く混らない。

(三)卵を一ッ入れてかき廻はし、又一つ入れてかき廻はす。一度に二ッも三ッも入れては、善くかき廻す事が出來ない。

(四)五分間も休まずに掻き廻して、滑かなドーが出來るまでかき廻はす。

(五)少しレモン皮を山葵おろしで擦り込む。又はメースを一茶匙入れても善い。

(六)これに麥粉を篩ひ込む。二分間手のさきで善くかき廻はす。これにてドーが出來あがる。

(七)菓子を燒くブリツキの箱の床に紙を一枚布いてドーを入れ、スポンジケーキと同じ位の火で、三十分間オーヴンの中で燒く。

(八)燒く間は決していぢくり廻はす勿れ。若し焦げかかつたら、上に紙を一枚かけて燒くが善が。併し底の方は少し位コゲてもかまはない。

應用

▲Jeley cake　パウンドケーキのドーを丸いレーヤーケーキの箱に入れて燒き、同じものを三枚つくつて、それを重ね、其の中間にジエリーをはさめたものは、即ちジエリーケーキである。

▲Chocolate cake　パウンドケーキを丸く三枚燒いて其の中間はチヨコレートをはさんで重ねたものは、即ちチヨコレートケーキである。

▲Strowbery short cake　パウントケーキ三枚の中間にストローベリーを入れる。ぞく／＼する故にショートの名あり。

▲Orange cake　其の三枚の間へオレンヂを入れる。

▲Cocoa nat cake　コーアナットのカスタートを入れる

▲Citoron Pound cake　卵又は砂糖と同じ目方だけを薄く切つて入れる。但し薄く切つて燒く時に、上にふりかけるばかりで善い、かきませるに及ばない。やいて居れば、自然にまぢるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二月中の菜園の仕事

久田二葉

◎此節耕耘して害蟲の卵、雜草の種子等を寒氣に暴露し、土壌へも空氣を通し肥やしておやりなさい。

◎それに温室の植物は露地のよりも虫害に罹り易いから、注意して其初期の豫防驅除をおしなさい。

◎農家では農具の製作及修繕、堆肥切返し、温床用の菰編、休閑畑の耕作等、仕事はいくらでもあります。

◎そろ〳〵菜園の地拵にかゝつてもよく、小設計の排水、客土なども此節にすれば至極よいのであります。

◎石刁柏及び鉢植草苺の早作りを出す用意をなし、なほ朝鮮薊の覆を除いて日光に當てゝおやりなさい。

◎土當歸の根本を渫らひ施肥（一反歩につき堆肥六百貫、下肥三百六十貫の割）し、其の上に塵土や腐れ土を盛つてやると見事に出來ます。

◎生菜用の豌豆、蠶豆、レンチル豆、韮葱、萵苣、野萵苣、塘蒿、茴香芹、胡蘿蔔、菜豆なども蒔き、なを

◎甘藍、花椰菜、葱頭、茄子、胡瓜等は普通の早仕立とするに矢張温床へ蒔かねばなりません。

◎石刁柏の促成床拵をするには幅四尺、長さ十二間の間、底を凹字形に一尺に掘り下げ、なほ其の周圍には南方一尺、北方一尺五寸の高さに藁圍を造るのであります。そして其の中へは馬糞三分、四五寸に切つた藁五分、落葉又は塵芥二分、なほ此の中へ一歩につき米糠二升の割に交ぜ、高低不平均のないやうに蹈み固めるのであります。尤も此時材料が乾いて居れば下水などを灌ぐのです。

◎石刁柏を栽植するには、其三四年生の健全な苗をば丁寧に堀つて來て、更に前項の床へ腐土か塵土二寸許り盛り、さて其の上へ苗を密植し、なほ又其の上へ塵土二寸餘り盛りかけ、更に又籾殻を五寸位被ぶせ、次に床面を油紙障子で覆ひ、寒い日や夜間の外氣侵入を防ぎ常に床内の温度を二十度餘りにして置くと二十五六日後から、追々採收されます。

◎早作りの萵苣、甘藍、花椰菜、胡瓜、葫などを移植

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し更に

◎馬鈴薯を作るには此中旬より豫め打起し、細く切り返して元肥（一反歩につき堆肥二百貫、藁灰六貫、過燐酸石灰六貫、下肥五十貫匁の割）を施し、畦幅二尺、株間一尺位に植ゑ込むのであります。種薯は形の整つた中大の成熟したのを二つに切り、切口に灰をつけて植ゑるとよろしい。

◎韮の根分及大芥子菜の中耕。

◎寒獨活、蕗、野蜀葵、草　苺などの肥培をなさい。

◎暖地では草　苺の莖頂を摘み、徒長を防いで實を多く結ぶ樣にお育てなさい。

◎食用百合は、此節から畦幅二尺株間八寸位、被土一寸餘に植ゑるのです。なほ注意すべきは芽を痛めぬこと及び、人屎尿を施すと球根に斑點が出來てよくないさうですから、他の（肥料一反歩につき、堆肥三百貫、過燐酸石灰五百　貫匁米糠十三貫匁の元肥及び、粕二十貫匁の補肥）を選ばねばなりません。

◎甘藷の苗床を拵へるには、温暖い場所を選んで一尺許り土を掘り、更に其周圍に高さ一尺、幅四尺長さ適宜の藁圍を拵へるのです。さうして其中へ少し腐りかけた藁を四五寸に切つたものと、厩肥の新らしいのと、落葉や塵芥等を代る〳〵交せ入れ蹈み固めては容れ、更に其上へ腐土と能く腐つた堆肥とを交せ合したのに一坪につき米糠二升の割に交せ、四寸の厚さに敷きつめ、床地として油障子を覆ふて寒氣を防ぐこと石刁柏の場合のやうに仕掛けるのであります。

新刊紹介

●●●●●

▲園藝十二ヶ月（久田二葉著）（序文の一節）私共は最初園藝を實際に試みかけました時、最も必要を感じたのは、毎月如何なる事を如何にすれば善いかと云ふのでした。……私共も自分が花を作る手控に、書を綴つて居たものがありましたから、更にいろ〳〵の書籍を參考し、現在實地に當つて居られる多くの方の意見をもうかゞひ、なほ園藝に須要なる知識や技術をも通俗に説明したのを書き入れ、匆卒の際に一書をなしたのが之れです。（價四十五錢京橋區銀座讀賣新聞社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

落葉朽葉

山口孤劍

（一）

遺羽子の影ばかり思出で多きはなし、余が生ひ立ちしは華しき色の遊廓なりき。彼の一葉がたけくらべの其れにも似たる花やかなる人情風俗をのみ見聞きしものから、その大黒屋のみどりといふ云ふべき。學校にも行かず、お針にも行かぬ末は遊女となりぬべき可愛らしき廓そだちしの乙女が桃割に緋鹿子かけて、お正月といふに他の町には遊びにも行かず、紅の掛行燈たてならぶ軒の門松いかげに遺羽子してゆくするの愁を知らず顔なるを見て、余は子供心にも憐れと思ひたりき。去年の晦日近き日、とある活版所の薄暗き器械の下に顔蒼き女工が食事したゝむる十分の休暇をかたみに遺羽子してさびしき笑をかはせるを見て、余は涙のさしぐまるゝを覺えざりき。正月よ來る勿れ、余はこの悲劇を追懐するに忍びざるなり。余はこの悲劇を目撃するに忍びざるなり。

（二）

悪女！毒婦！此の聲を聞く毎に余は人間の冷酷を憤りに堪えず。同じ水蒸氣も降れば雨となり、蒸せば霞となり。凝れば雪となる。自のなす瀬ならぬを測とりいでし憎むに足るべき、水山上に合して、前嶺に流れ、後峯に流る。境異れば流れゆく姿も自ら異らざるを得ず。賢女といひ悪婦といふ之れに類せずや。日蓮歌あり自ら横さまに降る雨はなし、風こそ雨の敵なりけれ。あゝ余は彼の嚴粛なる道徳家に恨あり。

（三）

紀海音の甲陽軍鑑今様姿を讀み、甲斐の名將山本勘助が、軍の馬具を購ふが爲め可愛き娘を遊女に賣りしを見、婦人の薄命を悲みしことありしが、今はなにがしといふ女教育家は、高等師範の教授までも勤めながら其の生家が貧しきといふにかこつけて、自ら求めて博徒と等しき職業に従ふ兜町の米相場師に嫁ぎしものすらあり。苦々しき話ならずや。

（四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

振袖火事の緣由なくば。菊坂の本明寺も只の寺なり。お七と吉三の戀がたりなくば、駒込の吉祥寺も名だに記臆する人もなからん、羅馬加特力の寺院の崇嚴は聖母マリアの像によりて加はり、靑丹よし寧樂の都の七堂伽藍も光明皇后ありしによりて其の雄麗いやますを覺ゆ。余は宗敎が婦人を賤しみ戀愛をさげしむを怪しむもの也。君よ知らずや、大なる藝術は大なる宗敎に一致するを。

（五）

ナポレオン戀を知らず、シーザー戀を知らず、歷山王も鐵木眞も戀を知らざりき。彼等は力の滿腹者にして戀の空腹者なりき。只一人の項羽あり、此の群雄を拔く。吳梅村の詩に曰く、博得美人心肯死、項王此處是英雄。江東八千の子弟なきも可也、一人の己が意氣に殉ずる者あらば人生何をも憾みんや。

（六）

蕎麥屋、汁粉屋などに客の給仕する年十三四には未だ足らぬ少女を見る時ほど憐ふかきはなし。羽子や手鞠に戯れてあるべき身を悲しや貧の鐵鎖にくびられし身は繩暖廉のかげに油香ぬかし束ね髮をかき上げつゝ道ゆく女學生の白ショールを羨みてやどす淚の露の玉はあゝ之れ宗敎家がいふ祖先の罪の報いなる乎。余は嘗て客のいふ言葉をとり違へしとて顏撻たれて泣く少女を見ては、冷き蕎麥も燒け爛れたる熱鐵を呑むが如く、價を早く懷にさぐりて飛ぶが如く馳せ出でしことありき。あゝ、都大路の美はしき瓦斯燈よ電燈よ、壯大なる美術館よ敎會よ。そは文明を讃美する者に一任せよ。希くは此の奴隷の少女をして、長く淚に咽ばしむる勿れ。

前號目次

▲山茶花とジヤガ芋（堺利彥）▲婦人の三模型＝貴婦人と家持女房と淫賣婦（堺利彥）▲美人と醜婦（深尾韶）▲義歯無用論（大石祿亭）▲正月の閑藝（久田二葉）▲西洋菓子の拵方（山口嘉吉）▲下女の樂に就いて（中尾傘瀬）▲水道と女中（堀保子）▲轉宅悲劇（上司小劍）▲女工（山口孤劍）▲飼猫ナツメ（大杉榮）▲女學校評論（一）女子大學（目黑里人）▲婦人界の新思潮▲編輯局より▲ローマ字欄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美人と天才

中尾清太郎

前號に出た深尾君の「美人元來善人にして、醜婦却つて惡人なり」との論を見て、余は余の平生の觀察と意見とに頗ろ合致したものゝあるに、尠からず嬉しく感じた、余は更に同君の言ひ落とした、若しくは言ひ及ばなんだ點を序でたい。

深尾君は美人に毒婦のあるは、境遇上美人には誘惑が多いので、遂に毒婦にして仕舞ふのである。醜婦に賢女のあるは外貌に耻ぢて自ら内心を琢くゆゑだと。よくわかつた議論である。余も元より全然贊同である。さて余は深尾君の信以上に、斯ういふことを信じてゐる。少なくとも信せむと欲してゐる。即ち美人には天才多しである。(同君のは道徳的觀察、余のは審美的觀察)、若し爾く放言するを許されずば、姑く天才には美人ありでもよい。

天才の容貌を篤と見よ。先づ注意すべき資格の第一は、眼である。最も公明に内部の靈活優秀を語るものは、眼である。パッチリと寧ろ大きく明らかに、截目

正しく打ち開きたる眼は、些の濁なく澄み切つて、其視凝めたる焦點に立つ人をして、座ろに心の奥の奥まで見透かさるゝを怖れしむる威力がある。次は鼻である。日本人ならば低いのが特徵なれば、餘り高くないにしても顏面の均齊の美を損ふやうでは天才の模型では無い。眉根もハッキリしてゐなくてはならぬ。口元も常には堅く締まつてゐなくてはならぬ。全體としては輪廓が整うて、明瞭でなくてはならぬ。但し必ずしも我邦の天才としては表情的でなくても甚しく缺くる所はあるまい。體格容姿を云へば、之も大でなくてもよいが――寧ろ小に過ぎてもよいが、一寸鏡花の描くやうな、キリヽとした女性で、一見他をして恍惚たらしむるよりも、印象明確ならしむる底の樣式を要する。以上は天才らしい女性の容貌を、極めて大可に想像したものである。

讀者は試みに之を具象化して、余と共に其天才の面影を想像せよ。而して所謂美人なるものゝ容貌と比べ見よ。恐らく天才の彼女は、他に對して耻づるなき、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正に一個の美人ではあるまいか。

余は天才と美人との間に、多くの近似點あるを認めざるを得ぬ。是れやがて二者の同意義なるを示すものではあるまいか。

抑々心の美と肉の美とは、一致するものである。未だ純潔なる品性を保つ者に、醜惡なる容貌を示すものは無い。又それと同じく醜惡なる容貌の者に、純潔なる品性を保つ者は無い。少なくとも人間が人間に損はれずして、眞に自然に發達したならば、心の美しい者は肉も亦美しいので、肉の醜い者は心も亦穢いのである。此際儒者流の性の善惡を説くのは、少しく野暮の嫌がある。美しい女は美しいだけに心も美しいので、醜い女は醜いだけに心も醜いのである。

斯く内容の美と外觀の美と一致するといふことは、決して余の獨斷で無い。すべて心理的狀態と生理的狀態とは、相關共通のもので、健全なる精神は健全なる身體に宿るといふも、疳癖ある者が胃病患者に多いのも、神經過敏（衰弱）の者が蒲柳の質なるも、厭世悲觀

の徒が虚弱者に多きも、皆此邊の消息を漏らすものである。いつも心に愉快を感じつゝある者は、其素振、言語、やはり愉快氣に見える。心に憂ある者は、顔も浮かぬ氣色に見える。況して裏に溢れるほどの天才を蓄へたる者が、其容貌に才氣迸る有様を見せぬことは無い筈である。而して此才氣の映發が、即ち容貌の美を成す所以となる。

若し才氣なく容貌だけの美人があつたならば、それは屹度間が拔けてゐるに違ない。間が拔けてゐては、眞個の美人とは言へまい。斯うなつて來ると、又美人は天才でなくてはならぬ。そこで天才は美人、美人は天才と定めたくなる。

よしや美人であつても、内部に一點不潔の蟠るものがあつたならば、是れ亦容貌の何處かにそれが現はれるに違ない。こんな美人は熟と視てゐると、厭になる。これは道德的に厭になるかも知れぬ。それでも美人となるには、心の美を要するといふ一證左にはなる。

「鬼も十八」といふのも、全く心に蟠のない、無邪

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氣の年頃を以つて、美の盛と定めたものである。それゆえに修養の力で、或程度まで心の美を以つて、肉の醜を改むることも出來やう。併しこれは餘談になる。

最後に、我邦の美人では、乙橘媛、衣通姫、額田女王、小町、清少、靜、淀君といふところであらう。其中、清少、靜などは、種々なる歴史美、聯想美に圍まれてゐるとがあるか、彼等自身も流石にキリ、とした、齒切れのいゝ、洵に天才的美人であつたらうと思はれる。紫式部といふ婦人は、余の想像では寧ろ醜婦である。源語に末摘花のやうな醜婦を描いてみせたから、余の彼女に對する聯想も、隨つて美しくない。又淀君は淫婦であるといふ廉で、余の數へ立てたのを咎むる讀者があるかも知れぬが、余は道德上の觀察をするもので無い。美人を美人として審美的に觀たので、所謂淫婦と妖婦と乃至毒婦と悍婦と、それらを避くる遑は無い。それで余の結論は斯うである。美人悉く天才なりとは言ひ難かるも、天才（若しくは天才の多く）は美人なりと言ひ得べしである。（一月十五日稿）

間接の讀者

私は御誌の間接の讀者であります。私は或る友人から常に本誌を借りて、即ちみづから代價を拂はずに、讀まして戴いてゐる者であります。併し、愛讀咀嚼の點に於ては、貸主よりも餘程熱心だと、いつも貸主と話して居る事であります。

私は、貧しい家に生れまして、幼少の頃より冷酷なる社會の迫害を受けて、つい先日までは、或る商家に小僧を勉めてゐた者であります。そして常に家庭に對して、大なる疑問を持つて居りました。

此の疑問を解きたい爲めに、嘗ては屢々教會の門をくゞつても見ました。けれど只虚禮と僞善とのみはびこつてゐるのに氣がつきまして、少なからず失望を致しました。其の折柄、ふとした事から、さきの友人が家庭雜誌を貸して呉れまして、かくて心の奥底に蟠つて解决する事の出來なかつた煩悶を、はからずも御誌によつて首肯する事を得たのであります。私が平素心に感じたり、想に觸るゝ事が、期せずして御誌に書かれて、そしてそれが妙に符合するので御座います。私はもう歡喜に堪へません。

どうぞ此の上とも紙上にて御教示の程を幾重にも御願致します。終りに編輯局の諸兄姉に、主義の爲めに益々御精勵御自重あらん事を祈ります。

大坂にて　一讀者

家庭雜誌編輯局　御中

小説

釣鐘物語

大杉榮譯

（一）

年老いた牧師様の住んでゐる、蘭土古里と云ふ小さなお寺に、古ぼけた釣鐘があつた。

此の釣鐘は、それはもう甚く毀れてゐて、其の聲は恰もお婆さんの嗄れ咳にも似て、何となく聞く者の氣を沈ませる。そして、野原の彼地此地に散らばつてゐる、農夫や牧夫どもを悲しませる。

牧師様の世良田翁は、七十五の老齢に達してゐるもの、中々の達者で、皺にも寄つたれ、薔薇色の小兒のやうな顔をして、教會の女共の紡つてゐる麻屑の束に似た、白い長い頭髪を房々させてゐる。

牧師様は、其の氣立の善いのと、寡慾なのとで、大府教會の人達に喜ばれてゐた。

（二）

世良田翁が教會の牧師となつてから、五十年目の金

祝日が近づいた。そこで教會の人達は、何か價の高いものを翁に贈らうと決めた。

教會の三人の下男が、窃かに村の各戸を廻り歩いて四百圓ばかりの寄附金を集めた。そして、町へ行つて新しい釣鐘を購ふやうにと、牧師様に其れを捧げた。

牧師様は、只もう感窮まつて、「オー我が兒よ」と云つたぎり、禮の言葉さへも出なかつた。

（三）

翌日、牧師様は釣鐘を買ひに出掛けた。露路村と云ふ所まで一里程も歩いて行けば、縣廳の所在地の鷲津市まで郵便馬車が通つてゐるのである。

其の日は美しい日であつた。鳥や木や草やが、道傍の日當りの善い所に、動めきながら私語いてゐる。

牧師様は、新しい釣鐘の妙なる音色を豫想ひながら、嬉しさうにして歩いてゐる。

露路村に程近くまで來た頃、牧師様は道傍に馬のはなれた見せ物師の馬車のあるのを見た。そして、其の馬車の傍には、老年の馬が四足を伸したなり、倒れて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐる。肋骨や背骨は折れ砕けて、皮膚は赤禿になつて、鼻の穴から血を出して、頭顱を脹らして、眼を白くして、死んでゐるのである。

奇妙な襤褸の衣服を着て、補綴した赤い色の胸當をした男女の老人が、道傍に座つて此の死んだ馬を悲しみ泣いてゐる。

突然十四五才の小娘が溝の底から飛び出て來て、牧師様の前に進み寄つた。

「どうぞ、牧師様！何かお施しを願ひます。」

此の小娘は、新しく鞣したての革のやうな皮膚をして、垢じみたシャツと赤い色のズボンとを著てゐる。彼女の眼は、天鵞絨でゝも作つたやうな、眞黒な、大きな瞳で一ぱいになつてゐる。彼女の黄色な小腕には、青い色の花が、奇麗に書れてある。そしてエジプト人のやうな其の顔を縁どつてゐる、長い黒い頭髪を、銅の輪櫛で押へてゐる。

牧師様は其の歩を緩めて、衣嚢から銅貨を出した。けれども、小娘が頻りに打ち眺めてゐるので、立ち止

まつて、尋ねた。

「お前はまあ如何したのか」

小娘の云ふには、

「兄さんが鶏を盗んだと云ふので、牢に入つてゐるので御座います。兄さんは家の稼手なのですから、其の日からもう三日も、私共は何にも食べないので御座います。」

牧師様は先きの銅貨をひつこませて、こんどは財布から銀貨を出した。

小娘は更に云ひ足した。

「私は手品を知つてゐます。そしてお母さんは占を致します。然し私共が餘り貧乏なものですから、町の人も村の人も皆此の職業を許して呉れません。それに、今又、大切な馬が死んだのですもの。私共はまあ之れから如何なります事やら。」

牧師様はチョット遮つて、

「然し、野良へ仕事をさがしに行つたら善いぢやないか。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「村の人達は私共を嫌つて、見つけ次第石を投りつけます。それに、私共は勞働に馴れませんし、手品の外には何にも出來ません。馬と衣服を買ふ少しのお金があれば、其の職業でどうかこうかして行けるのですけれど。今はもう、死ぬより外に仕方がありません。」

牧師樣は、又其の銀貨を財布の中へひつこませて仕舞つた。そして云つた。

「お前は神樣を愛してゐるか。」

小娘は答へた。

「エ、若し神樣が私共を助けて下さるなら。」

其の時牧師樣は、其の腰に下げてゐた、例の四百圓入りの財布の、甚だ重いのを感じた。

小娘は、其の黑い瞳で一ぱいになつた目で、絶えず牧師樣を見つめてゐる。

牧師樣は云つた。

「お前は平常品行が善いか。」

「品行?」

と小娘は驚いて問ひたゞした。彼女には此の言葉が解らないのである。

「私は神樣を愛するとお云いなさい。」

小娘は默つて仕舞つた。そして其の眼は涙で滿ちてゐる。牧師樣は上衣のボタンを外して、金の一ぱい入つてゐる袋を取出した。

小娘は猿のやうに其の袋を奪取つて、

「牧師樣！私はあなたを愛します。」

そして彼女は、先刻からジツとして死んだ馬を歎いてゐる、男女の老人の許に走つて行つた。

（四）

牧師樣は、何故神樣はこんなに多くの人を、貧窮に困らせるのだらうと考へながら、又あの宗教を信じない、洗禮も受けない小娘に、神樣が光明を與へ下さるやうにと念じながら、猶も露路村の方へと急いだ。

併し又急に、もう釣鐘を買ふ金もないのだから、何にも鷲津まで行く必要もないと思いついて、もと來た路をひつかへした。

牧師樣は、見ず知らずのあんな小娘に、如何して、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分のでもない彼の多額を金を與つたのかと、今更に解らない。そこでもう一度あの小娘に會ひたいと思ひながら、歩を早めた。けれども道傍には、もう、例の死んだ馬と、馬のはなれた馬車とがあるのみであつた。

牧師樣は、自分のした事を、深く考へて見た。疑もなく彼れは大罪を犯したのだ。教會員の信用を濫にして、預り物を着服したのだ。盗棒を仕たのだ。

そして牧師樣は、其の罪の結果が如何なる事かと、そら恐ろしく思つた。如何したら隱し終へるであらうか。如何したら償ふ事が出來るであらうか。如何したら又四百圓の金を手に入れる事が出來るであらうか。又、それまでの間に、人々の疑ひを何と云つて辨解したら善ふらうか。何と云つて其の行爲を説明したら善からうか。

やがて、空が暗くなつて來た。そして鉛色の地平線の上に、樹林が無遠慮に、嘲るやうに、緑色をなしてゐる。大きな雨がポツ〳〵と落ちて來た。牧師樣はもう堪らなく悲しくなつた。

牧師樣は、窃かに、其の家に歸つた。

（五）

下婢のお須賀婆さんは、

『まあ、牧師樣、大そうお早いお歸りで御座いますね。鷲津へは御出でにならなかつたのですか。』

牧師樣は虚言を云つた。

『あゝ馬車の間に合はなかつたものだから……又何日か行く事にしやう……併しね、私が歸つた事を誰れにも云はぬやうにね。』

其の翌日、牧師樣は御祈禱も仕ない。そして一室に閉ぢ籠つたきり、いつもの果物畑への散歩も仕ない。併し其の次ぎの日に、黒須村から病人に聖油をかけて戴きたいと、頼みに來た。

お須賀婆さんは、命令られた通りに、

『牧師樣はまだお歸りになりませんが』

『否や、私はこゝにゐる』

と、牧師樣は堪へられなくなつて、出て來た。

（六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

黒須村からの歸り路に、牧師樣は、教會中で一番信心深いと云ふ人に出遭つた。

「これはまあ、牧師樣、御旅行は如何で御座いました。」

牧師樣は又虚言を云つた。

「エヽ、御蔭で大そう面白い旅行を。」

「釣鐘は如何なさいました。」

牧師樣は、又々虚言を云つた。

「善い釣鐘でな、銀ばかりで作つたやうぢや。そして其の音の善さは、爪先きで彈いて見ても、容易に鳴りが止まん位ぢや。」

「何日になりましたら、拜見が出來ませう。」

「あゝもう直きぢや。併し今銘を彫つたり、聖書の文句なぞを刻んだり仕てゐるから、少しは時もかゝらう。」

（七）

牧師樣は家に歸つて、お須賀婆さんに尋ねた。

「私の室にある椅子だの時計だの戸棚だのを賣つた

ら、四百圓ばかりの金は出來まいかな。」

「左樣で御座います。斯う申しては失禮ですが、御室の物を皆お拂ひになりましても、やうやく三十圓位のものでせうか。」

「あゝ、婆さん！私はもう今日から肉を食べない。どうも肉は私の身體に惡いやうだ。」

お須賀婆さんは怪しんで、

「まあ牧師樣、可笑しいぢやありませんか。鷲津にいらしたあの日から、何か御心配事があるやうですが、如何かなすつたので御座いますか。」

婆さんは色々と問ひつめて、遂に牧師樣にみんな白狀させて仕舞つた。

「まあそんな事で御座いますか。それなら少しも御心配はいりません。あなた樣が其のお金を都合なさるまで、私が何とか辨解を仕て置きませう程に。」

そしてお須賀婆さんは、會ふ人毎に次のやうに辨解を仕てゐた。

「運送の途中で釣鐘が毀れたものですから、今修繕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にやつてあります。牧師樣の仰有るには、出來上つたら、こんどは羅馬へ送つて、法王樣に洗禮をして戴くのださうで御座います。」

牧師樣は、お須賀婆さんの此の辨解を恕してゐたが自分は益々苦悶に陷つた。何となれば、牧師樣は自分の虛言を恥づる外に、お須賀婆さんの虛言にも責任を持たねばならぬのだ。そして、之れに加ふるに、敎會員からの預金を着服した大罪があるのだ。牧師樣は此の大罪の重荷の下に在つて、赤い薔薇色の頰も土のやうな蒼白い色となつて、日に日に瘦せ細つて行く。

（八）

牧師樣の御祝と釣鐘の洗禮とに定められた日は、何の事もなしに過ぎ去つた。蘭土方里の村人等は、このやうな怠慢を不思議な事に思つた。そして、いろ〱な風說が立つた。中には、露路村の近所で牧師樣が見せ物師の娘を連れてゐたのを見たと云ふて、

『分明つてゐるぢやないか。釣鐘の金はあの小娘の爲めに費つて仕舞つたのさ。』

などと評判する者もある。そして、そろ〱と牧師樣に對する敵があらはれて來た。牧師樣が道を步いてゐると、出遭ふ人々の中には帽子をとらない者もある。そして少し行き過ぎると、直に嘲弄の聲が聞える。

牧師樣は、もう其の良心の呵責に堪えられなくなつた。彼れは其の罪の重大な事も能く知つてゐる。そして大に其の事を後悔してゐる。併しながら彼は又、其の心の奧底には、何となく後悔しかねる或る物がある。勿論深く考へる時もなかつたのだけれど、兎も角も自分のでもない大金をぼんやり人に與つて仕舞つたのは、いかにも輕卒であつた、と後悔は仕てゐる。けれども又、牧師樣は私に思つてゐる、あの施は、小娘の荒々しい心の底に、きつと神樣の存在を知らしめたに違いないと。そして牧師樣の目には、今でもあの小娘の、淚で一ぱいになつた黑い優しい大きな眼が映るのである。

併しながら、其の良心の苦悶は、益々激しくなつて來る。長びけば長びく程、其の罪は重くなるのだ。遂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に牧師様は、教會員の前で之れを懺悔して、此の苦痛から遁れ出やうと決心した。

（九）

次ぎの日曜日に、牧師様は説教臺に上つて、胸中の苦悶を押へながら、告白室の信徒のやうに蒼くなつてそして硬くなつて語り出した。

「私が愛する兄弟諸君！私は諸君の前に懺悔致します。」

俄然、其の時に、銀鈴のやうな、鐘の音が、鐘撞堂から高く響いて來た。人々の頭は、覺えず其の方に向いた。そして椅子から椅子へ、聲低う

「新しい鐘だ、新しい鐘だ。」

（十）

何と云ふ奇跡であらう。神様は、此の寡欲な童の名譽を救ふ爲めに、其の天使をして、此の新しい釣鐘を持ち來らしめたのであらうか。

或は又、お須賀婆さんが、此の蘭土古里から二里ばかりの所に莊大な邸を構へてゐる、あの亞米利加人の

女に、其の主人の苦悶を訴へて、そしてあの叔女達は、牧師様を驚かしてやらうと云ふので、わざとこんな事を仕たのであらうか。

予は、其の後の方が始めの方よりも眞に近くと思ふ。其れは兎も角として、蘭土古里の村人は、牧師様が何を懺悔するのであつたか、永久に知る者はなかつたのである。

注意！

本社の移轉

東京府下、新宿淀橋町柏木
三百四十二番地

家庭雜誌社

女學校評論

目黒里人

（三）成女學校

●都門唯一の平民的校風━━「時事新報」の新年附錄に「現今女學生の風俗」と題して、都下の重なる女學校を擧げて其校風を語り、寫眞畫を附して各々其學生の風俗を示して居る。記者は幸か、不幸か時事子の撰擇に成女學校が漏れて居るのを見て多少の感慨を催したのである。

けれども、また一方から考へて見ると夫も無理はない。同校が先年迄校舍として用ゐて居た、下二番町の古い、みすぼらしい玄關を見たものは、誰でも古大名の中間長屋の跡としか思はない。而も之が成女學校の校門であり玄關であつて、校舍の中を見た處で、ヤハリ此玄關に相應した疊敷に不完全な机を並べた處などは宛然昔の寺古屋同樣、誰が眼にも之を以て帝都の女學校の重なるものとして數へようといふ勇氣は無くな

つて仕舞ふ。けれども徒らに華美を競ひ、虛飾を誇つて更に精神的方面に些の發達をもなし得ない帝都の女學校界に殆ど稀に見るような平民的な、積極的な、優美な、淡洒な、進取的な、合理的な校風が何時の間にか此寺古屋同樣な女學校の破障子の間から、たとへば春の淡雪の下に萠え出づる若草のように、活潑として生れ出でたのである。

此美しい校風を賞讃するに當つて記者は學校當事者の人物に就て多少の觀察を下して見たいけれども夫は後の事として、記者は成女學校の校風の健全な處は只單に職員の誘導とか、校長の感化とかいふ事ばかりによるのでなく、女學生自身の『自發的』なる『執意的』なる努力による處が多いといふ事を認める。

則ち自己の校舍の狹隘なる事、設備の不完全なる事、生徒の數の少き事、教師の多からざる事等、換言すれば此學校の生徒が常に感じつゝあつた物質的の不滿足は、彼等の優しい精神の發展を促す上に於て、非常に有力な刺擊となつた。けれども此際もし教育當事者が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生徒の母校に對する執着心を深からしむる事が出來なかつたならば、成女學校は消滅したのである。幸にして吉村寅太郎君、小谷直孝君、宮田脩君の三名揃ひも揃つて事業とか、計營とかいふ事には下手でも、其眞摯なる點に於て、其熱誠なる點に於て、生徒の非常な同情と熱着心を喚起し得た。

玆に於てか生徒の『共同一致』といふ事は先づ第一に行はれた。それから從つて『師弟の情宜』が非常に親厚になる、學校の形式的、物質的方面に絶望した生徒は、其師弟間に結ばれた不言不語の共同的精神を以て、内容的、精神的方面に於て大に努力する所があつた。此の如くにして質素な、清楚な、淡洒な、活動的な、進取的な、約言すれば最も善良なる意味に於ての、『平民的校風』は生じて來たのである。

●黑色の表徵――成女學校は明治三十二年の十一月にかの下二番町の寺古屋的校舍に於て讒かに八人の生徒を以て創始された。けれども小數の弱者は常に強い共同的精神と協愛的精神とを以て、何時の間にか社會に卓絶し得る程の能力と可能性とを修養するといふ事は自然の法則であるらしい。明治三十三年に此學校の生徒が自ら黑色の表徵を用ゐて、此寺古屋的女學校の生徒たる事を表徵したのは、全く此沈靜なる色彩を以て此眞摯を徵さんとしたのである。今日都下の各女學校が『女學生墮落』といふ愚なる世間の醜劣なる攻擊に驚いて、主人が飼犬に急製の頸輪をはめて屠殺者の横行に備へる樣に、校衣を制定したり、軍人のような革帶を發明したりするのに比べては、其根底に於て雲泥の差があつたといふてもよかろう。

殊に黑は『眞摯』を意味する、『深刻』を意味する。記者はうら若い處女を捉へて其身邊の裝飾に關して無理な要求をする者ではない、けれども記者は今の世間が徒らに間色好みの、挑發的な色彩を撰んで、『ハイカラ姿』などゝいふのを見て非常な不快を覺ゆるものである。語を寄す成女學校の才媛諸君、曾て御身等自らが撰擇して、校風の誇りとした黑色が表徵する『眞摯』『質素』の精神を夢にだも忘れ給ふな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「黒」といへば記者は黒い學校服の飾り氣の無いのに青色の靴下を高く、髪をマガレットに束ねて、氷すべりに餘念のない、急進的な、無邪氣な、快活な露西亞の女學生を偲ぶ、更に河畔の古城を望む葡萄畑の夕ぐれに、輕快な黒色のカシミア服に、玉蟲色のリボンをつけた農民の處女が籠に紫の葡萄を摘んで誰やらと語らいながら家路に歸る其光景を偲ぶのである。嗚記者も亦此黒色を好む寂しい農民の子である。

●新校主宮田脩君――三十二年十一月一日に成女學校の創立者吉村寅太郎君が水谷直孝君と相計つて學校を始めた時に入學志望者がヤツト四名であつたといふ事だ。吉村君の如きは當時障子の切り張りまでもしたといふのに徵しても、大かた彼等の苦心は想察される。

けれども記者は彼等と共に宮田脩君を忘れる事は出來ない。彼の出身は早稻田といふ事であるけれども、其「創始的精神」を有する點に於て、「先輩」ぶらぬ點に於て、同輩に對して非常に篤實なる點に於て、彼は慥かに早稻田文士の模型を脱して居る。記者は『丁酉倫

理會』の講演で兩三度此人の風采と意見とに接した事がある。

彼の倫理は惡い意味でいふメタフヒジツクの弊害を脱して非常に健全な質實な處がある。彼の說く處は常に人生の事實を離れない。彼は其學校の女學生に對して、苟も人生の大事實である以上、どんな事でも話して聞かす事を躊躇しない。かくして彼は此事實に對して精確な倫理的、道德的の批評を下す。そこで女學生は非常な感興を以て彼の講義に對する。記者の知人の娘などは常に涙を流して咽嗚する事が屢々あるそうだ此學校の平民的な合理的な、進取的な氣風は實に彼の感化が預つて力あるものといふ可きである。

彼の風采は、瘦ぎすの、丈の高い、色の白い如何にも溫厚な君子人のそれである。記者は彼と何等の因緣もないけれども、記者の友人の話によると彼は少年時代には非常な腕白な運動好きであつて、血氣にまかせて隨分無邪氣な亂暴もやつたそうだ。それかあらぬか彼は柔道なども相應に熟達して居て、マサカの時には

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と今でもといふて居るそうである。併し倫理會等の演壇に立つた彼には、到底そんな半面は氣配にも見られない。

彼は決して眞理の前に『權威』の制裁を怖れたり、世間の愚なる感情、愚なる習慣の前に自己の理想と抱負とを枉げるような臆病者ではない。そこで女學校の校長としては他人の敢てなし得ない、人をして手に汗を握らしむるような事もする。

明治三十五年吉村君が金澤に去つてから成女學校の運命は遂に此好個の候補者の掌中に落ちて來た。見よ、果然成女學校は一大飛躍をなすに至つたではないか。

●校舍新築の落成――吉村、水谷、嘉悦、宮田諸子の非常な盡力の結果として、多年の宿望であつた成女學校の新築は行はれた。けれども之は殆ど宮田君の獨力經營といふても好い位である。

去年十二月某日成女學校は例の下二番町の寺古屋的校舍を捨て、富久町の高臺に引移つた。けれどもかの慶應義塾の今昔を思ひ、早稻田大學の今昔を偲ぶ人は、校舍の增築、事業の擴張と共に、其美しい校風、校紀を失墜せぬように努めなければならない。之は記者が特に宮田君と成女學校の才媛諸子に希望する處である

今や都下の女學生が擧つて虛榮と虛飾を事とし、華美な、妖艶な挑發的な風俗と、貴族崇拜、軍人崇拜、黃金崇拜、家庭崇拜の奴隷的根性が一世を風靡するの時にあたつて記者は此學校の平民的精神、進取的精神が、燦然として風雨暗淡たる浮世の闇に一道の光を投げて、婦人解放のパイオニアーたらん事を希望して止まないものである　（完）

▲前號の記事に關して種々の感想、忠告を與へられたる諸子の懇切を謝す。次號より其重なるものを餘白に掲載すべし讀者は遠慮なく申込まれよ▲次號には青山女學院の內部を描出すべし。

●女子大學の不始末

此頃『目白の花柳塲』と題した女子大學の事が、平民新聞に每日續いて出されてゐる。其れを讀んで見ると、案外ひどい事が女子大學の內幕にはあるやうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●婦人界の新思潮

△婦人鸚鵡論（小内山薫） 奇矯の聞高き米の評論家（而して小說家又脚本家）バアナード・ショーの書いた『イプセニズムの精髓』と云ふ書籍の中に『女らしき女』と題する一章の婦人論がある。イブセンの婦人觀をショー一流の筆で說明したものであるから、其の「良妻賢母」に喰はす三十棒たる事は論を待たぬ

「吾人若し育兒房と庖厨とを以て婦人が生れながらの棲處なりとするならば、夫は英吉利の小兒が籠を見て鸚鵡が生れながらの棲處だと思ふ類である――英吉利の小兒は籠の外で鸚鵡を見た事が無いからだ。處が、世間には俗人的鸚鵡と云つて、愚や主人と說を同うし、餌のある分には外に居るより結句籠の中の方が氣樂だなどゝ思つてるのがある。

また、理想家的鸚鵡と云つて、鸚鵡の使命は「オトッサン！オッカサン！」を叫んで、家庭に幸福を齎らすにあり。苟も眞の鸚鵡たる者は、此愛他主義的事業の爲めに自己の自由を犧牲にし、以て靈魂の至上の滿足を得なければならぬ。などゝ自ら說き、自ら服して居るのがある。

それから又、神學者的鸚鵡と云つて、此禁錮は苦痛なるが故に神の聖心であるに相違ないと諦めて居るのがある。

更に又、鸚鵡を籠より放つて猫の餌食とする、少くとも其才藝を無視して生存競爭場裏に立たしめ、以て其纖細な體を粗野ならしむるのは、寧ろ殘酷な親切である。などゝ論ずる理論家的鸚鵡と云のもあらう。

しかも精神の自由を貴ぶ人間が同情を寄せる唯一の鸚鵡は、解放を絕叫する鸚鵡である、自然の狀態に回して吳れと求めて止まぬ鸚鵡である――主我的な鳥だと人は罵るであらう、家族の滿足、否、最大多數の人の最大幸福よりも自個の滿足を先にするのであるから。

斯る鳥は家庭の愛玩物ともならず、左樣かと云つて猛犬ほどの力も無い者である、然し吾人は斯かる鸚鵡を尊敬しなければならない――此鸚鵡にして若し其說を固守せんか、吾人は之を解放するか、之を殺すかより、他に取るべき道は無い。

之を要するに、女は其女らしい處――即ち、夫に對する義務、兒に對する義務、社會に對する義務、法律に對する義務、自分以外の所有人に對する義務――を放棄するにあらずむば、自由の身となる事は出來ない。借者と貸者が同じ人なら借財は帳消になる理屈だから、自然に對する義務は義務にならない。其支拂は單に個人の意志を滿足させれば好いのである。畢竟世間の義務なる者は、意志と云ふ者を鬼か惡魔のやうに恐がつてる輩が、之に加へた束縛に外ならぬ。

だから、婦人は全然義務なる者を放棄すべきである。義務の放棄あつて、始めて婦人の自由があるのである。

婦人は男子の奴隷であると云ふのは嘘だ婦人は義務の奴隷である。自由に到達する男子の道は義務と理想との破片を以て埋められた。自由に向ふ婦人の道も亦然あらればならぬ。

理想の破壞者は社會の敵かも知れないが僞多き此世界から「虛誕」を掃き出して了ふ人に相違ない。（讀賣新聞）

小内山薫君は、我が貞淑なる日本の婦人に斯くの如き面白き說を紹介して吳れた、吾人は甚だ其の勞を多とす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●記者より

▲家庭雜誌も、寄書家諸君と讀者諸君との厚き同情と庇護とにより、兎も角も、第五卷の第四號まで漕ぎつけて來ました。其の間、終始一貫して經營者の頭を苦しめたのは、每度申しますが財政の困難であります。

▲殊に昨年の秋、由分社が解散して、本誌だけ別に本社から出すやうになりました頃は、殆んど困難の極に達して居りました。されば、前には五十六頁の大部であつたのを、僅かに三十二頁の小冊子にして仕舞つたのも、何とかして此の困難から遁れ出やうとする、窮策に外ならぬのでありました。

▲然るに昨年の暮になりまして、又もや一大障害があらはれて來ました。それは印刷代と紙代とが、從來より二割五分も高價になつた事であります。今迄の印刷代と紙代とですら、漸くに賣上の代價から拂ふ事が出來た位なのであります。かくして本誌の維持は、こゝに何等かの方法をとらなければ、到底不可能の事となつたのであります。

▲そこで社中一同相談の上、こゝに小額の值上をして、果して本誌が存立の價値を有するか否かを、再び社會に問ふて見る事と決めました。即ち、本誌の定價を次の如くに改める事に致しました。

一部　金八錢
半年分　金四十錢
一年分　金八十錢

▲實際、三十二頁の小冊子で、一部の定價を六錢に仕てゐるものは、今では殆んどありません。又それでは、餘程の發行部數でもなければ、到底維持が出來ないのであります。此の點は讀者諸君に能く能く御諒察を願ひます。

▲此の值上の實行は、次ぎの第五號から行ひます。そして、一月末日までに前金を拂込まれた諸君に對しては、既得權を重んじまして、其の前金の期の滿つる迄、今迄の定價を以て、雜誌を御送り致します。

▲值上の後は、社中に置きましても、更に奮發いたし、大に勉强の効を紙上に現はして、讀者諸君の同情と厚意とに些かなりとも報いたいものと、心がけてゐます。讀者諸君に於かれても何卒此の微衷を憐み、御助勢のほど、偏に御願ひ申上げます。

▲本月は、丁度編輯の時にかゝると記者が病氣をして、數日間床に就いてゐたものですから、遂に原稿を印刷場へ送るのが常よりも餘程遲れました。從つて發行の日も一日二日遲れる事と思ひます病氣とは云ひながら、讀者諸君に對して誠に相濟みません。

●新刊紹介

▲簡易生活（月刊）　芝區白金三光町其社
▲世界婦人（月二回）　府下淀橋町角筈其社
▲少年（月刊）　時事新報社
▲英學生（月二回）　神田區表神保町東西社
▲大東京（月二回）　神田區仲猿樂町大東社
▲弘道（月刊）　麴町飯田町大日本弘道會
▲書畫骨董雜誌（月刊）　本鄉區千駄木林町其社
▲家庭新報（月二回）　小石川區久堅町家庭社
▲家庭之友（月刊）　本鄉區西片町內外出版協會
▲婦人新報（月刊）　府下豐多摩郡澁谷村其社
▲神奈川教報（月刊）　神奈川縣足柄下郡溫泉其社
▲海國（月刊）　京橋區銀座佐久良書房
▲新人（月刊）　小石川區表町其社
▲ホトトギス（月刊）　麴町區富士見町俳書堂
▲新婦人（月三回）　千葉本町其社
▲中央公論（月刊）　本鄉區西片町反省社
▲新東京（月刊）　神田區三崎町其社
▲ローマ字（月刊）　本鄉區東片町新公論社
▲家庭週報（週刊）　女子大學內櫻楓會
▲日本の家庭（月刊）　神田區表神保町同文館
▲婦人衛生雜誌（月刊）　大日本婦人衛生會
▲牟婁新報（每三日刊）　紀伊國田邊町其社
▲うらにしき（月刊）　神田區南甲賀町尙絅社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(Kono ran wa Fukao Shō ga kaku.)

Fujin no Seiji Undō.

Ima no Nippon no hōritsu ni yoreba fujin wa Seiji-jō ni nan no kenri omo ete oranu; sunawachi Teikoku Gikai no Giin o senkyo-suru koto mo dekinai shi, seidan-enzetsu o kiku koto mo dekinai shi, seiji no kumiai e hairu koto mo dekinai. Sokode, semete kono ato no futatsu dake demo dekiru yō ni shitai to yū no de, kokoroaru fujin wa san-nen hodo mae kara iro-iro honeootte iru. Kotoshi mo yahari kyonen no yō ni Teikoku Gikai e hōritsu no kaisei o negau tame ni sūnin no fujin ga nesshin ni undō shite iru. Sono hito-bito wa: Fukuda-Hideko, Sakai-Tameko, Kōtoku-Chiyoko, Imai-Utako nado de aru. Fukuda san wa sono undō no kikanzasshi to shite "Sekai Fujin" to yū no wo maitsuki dashite iru.

Joshi Daigaku no Fu-shimatsu.

Konogoro "Mejiro no Karyūkyō" to daishita Joshi Daigaku no koto ga "Heimin Shimbun" ni mainichi tsuzuite dasarete iru. Sore o yonde miru to angaina hidoi koto ga Joshi Daigaku no uchimaku ni wa aru yō da.

Rōmaji Hirome-kai.

Sengetsu 22 nichi ni C kaiin no atsumari o hiraite kaichō o senkyo-shita tokoro ga, manjo-itchi de, Saionji Kimmochi kun ga tōsen-shita sōda.

Heimin Shimbun.

Tōkyō Kyōbashi-ku Shintomi-chō 6 chōme 7 banchi, Shintomiza no tonari, Heimin Sha kara mainichi hakkōsareru Heimin Shimbun wa Nippon Shakaitō no kikan shimbun de aru ga, Rōmaji ni wa daisansei de, sono Hirome-kai no tame ni wa ōini jinryokusuru to yū.

Harman san ga Yurusareta.

Sakunen Nigatsu ni rō e irerareta Amerika no fujin kaihō undō no oimusha *Harman* wa ichinen no keiki o tsutome owaranu uchi, saru 12 gatsu 25 nichi no ban tokuni yurusareta. Sorede kotoshi shōgatsu sōsō, sakanna kangei-kai ga Chikago de moyōsareta to yū kotodesu.

定價

一部	金六錢
六ケ月前金	三十二錢
一ケ年前金	六十錢
（何れも郵税共）	

廣告料

特別一頁	十圓
普通一頁	七圓

▲本誌は毎月一回（一日）發行とす。

▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵券代用ならば五厘切手で一割增に願ひます。

▲御注文の時は必ず何巻何號より何號まで何册の前金と明瞭に御記載を願ひます。

▲御手紙には必ず住所姓名をハツキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。

▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。

▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵税を申受けます。

明治四十年一月廿八日印刷
明治四十年二月一日發行

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行兼編輯人兼印刷人 大杉榮
東京市京橋區日吉町十番地
印刷所 近藤商店

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行所 家庭雜誌社

大賣捌所 上田屋 東京堂 良明堂 東海堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御用諸學校
TRADE S.A MARK
ANDO-SHOTEN
No 5. Urajimho-cho. KANDA. TOKYO
Manufacturer of Various Appliances for Gymnastic & Other Out-door Games.
S.A.
東京神田裏神保町
安藤商店
電話本局四八四番
改良ロンテニス二重枠ラケット一組
一號品 二、五〇〇
二號品 一、〇〇〇
三號品 八、八〇〇
四號品 七、四〇〇
五號品 六、七〇〇
六號品 五、七〇〇
七號小學用 四、七〇〇
八號婦人用 六、〇〇〇
九號婦人用 七、〇〇〇
體育用品
東京神田裏神保町五
S.A. 安藤商店
電本 484
ピンポン室内テニス
一號一箱 一、二二〇
二號同 一、五〇〇
三號同 一、六八〇
四號同 一、八三〇
號外同 〇、八八〇
改良テニスネット
一號一張四間半 一、七五〇
二號一張五間半 二、二五〇
三號一張六間 二、四五〇
四號一張七間 二、九五〇
ゴム入フートボール
二號一個 四、〇〇〇
三號同 四、五〇〇
四號同 五、〇〇〇
五號同 五、五〇〇
六號同 六、〇〇〇
七號同 六、五〇〇
八號同 七、〇〇〇
體操遊戯器械一切
東京神田裏神保町
安藤商店
電話本局四百八十四

齒科治療 自午前八時 至午後六時
神田區須田町二十六番地
齒科醫 吉瀬才市郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

眼科診察 毎日 午前
京橋南佐柄木町五
（電話新三四五八）
川上眼科院

外科皮膚病 梅毒 痔瘻 外科的婦人科 泌尿道器械的療法
診察 午前九時より十二時まで
東京 新橋際 出雲橋 加藤病院
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

產科 婦人科
橫濱市眞砂町二丁目廿六番地
朝長（ともなが）鷹二郎
診察毎日午前

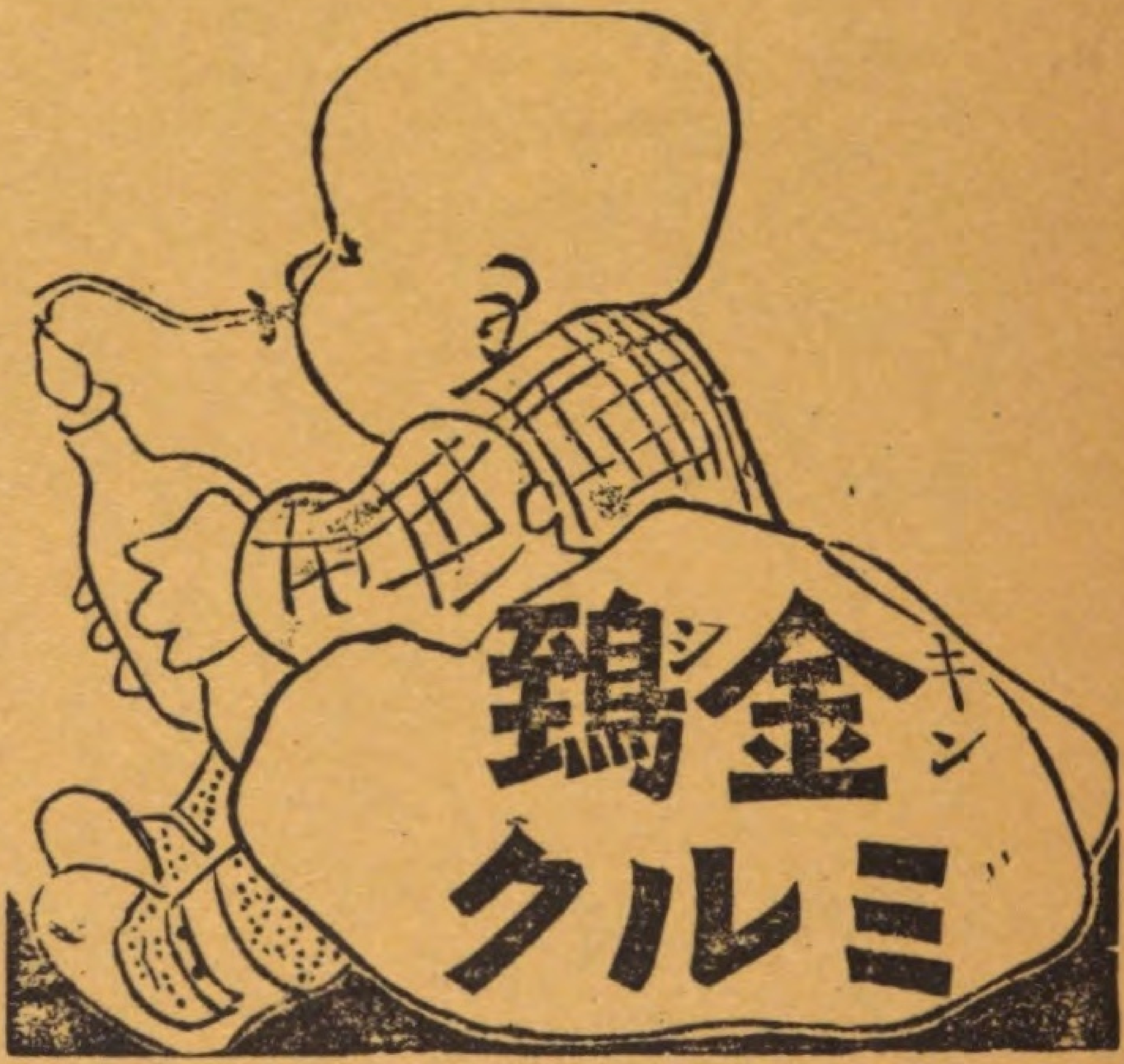
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

製造元

花島煉乳場

伊豆國三島町

○各位の家庭の花の一層美はしからんが爲に



○遠來の輸入品よりも新鮮なる内地製煉乳を薦む

發賣元

逸見山陽堂

東京日本橋區大傳馬町一丁目

（電話浪花二一五番）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會

名譽銀牌受領

粉製 **赤罐入** 發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

●發賣元

東京神田　小林富次郎
大阪博勞町　小林支店
清國天津　小林洋行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA